

プランゲ文庫に見る 占領期の朝鮮語教科書について

池 貞 姫

はじめに

1945年8月、日本は終戦とともに、GHQ（連合国軍総司令部）の占領下に置かれることとなった。GHQは、占領政策の一つとして、全ての日本の出版物を検閲対象とした。戦後残った在日朝鮮人による出版物も勿論例外ではなかった。これらの検閲資料は、現在アメリカのメリーランド大学内にあるプランゲ文庫に収められている。

本稿では、プランゲ文庫に収められた朝鮮語の出版物、とりわけ、在日朝鮮人児童のための学校教科書の概要と実態、さらにその特徴について述べることにする。

1. プランゲ文庫についての概要

「プランゲ文庫」というコレクションは、現在米国メリーランド大学のホーンバイク図書館に所蔵されている¹⁾。このコレクションは、GHQ戦史室に配

1) コレクションは、最初メリーランド大学のマッケルディン図書館に所蔵されていたが、2007年11月に同じキャンパス内のホーンバイク図書館に移転し、翌年から利用が再開された。

属されていたG.W. プランゲ²⁾ (1910-1980) が、GHQによる検閲対象となった資料群を、検閲が廃止される1949年10月以後、本務校のメリーランド大学に移管したものが発端となっている。それが後に正式なコレクションとなり、整理が着手されるようになった。コレクションは、雑誌13,799タイトル、新聞18,047タイトル、図書・パンフレット類約71,000タイトルを数える。これには、在日朝鮮人による印刷物も無論含まれている³⁾。

なお、プランゲ文庫には、検閲のために収集された印刷物とともに、検閲に関する文書も残されており、検閲実態の一端を窺い知ることができる。

2. 戦後在日朝鮮人の教育状況と教科書作成

日本による36年もの植民地支配の下、朝鮮半島から相当数の人びとの移動があり、終戦時には200万人以上の在日朝鮮人が存在した。日本の敗戦は、すなわち朝鮮人にとって植民地支配からの祖国の解放を意味した。在日朝鮮人は終戦後の混乱の中、祖国への帰国を目指すも、それが思い通りに遂げられたわけではなかった⁴⁾。

そのような中、帰国者援助・相互扶助・民族教育などを行うことを目的とした組織が日本各地に自然発生的に立ち上がり、それを束ねたのが「在日本朝鮮人連盟 (朝連)」という一大組織であった (1945年10月15日に結成)。

2) ゴードン・ウィリアム・プランゲ (Gordon William Prange) はアイオワ大学で歴史学を専攻し、1937年にメリーランド大学歴史学科に着任した後、第二次大戦中、海軍中佐として米国海軍に勤めた。終戦後日本に滞在し、連合国総司令官ダグラス・マッカーサーの下、GHQの歴史課長ならびに戦史室長を務めた (1946-1951)。

3) 小林聡明 (2007)、(2010) は、前者で在日朝鮮人新聞について、後者で在日朝鮮人雑誌について検討している。

4) 港や駅の周辺で船を待つ人びとが万単位で滞留する状態が続いたり、帰国時の荷物と財産持出が極度に制限されたこと、また、本国で政治・経済・社会的な混乱が続いたことなどが、帰国を断念する要因となったと考えられる。魚塘 (1998) pp.103-104、小林聡明 (2001) pp.107-108、『歴史教科書 在日コリアンの歴史』作成委員会編 (2006) pp.64-67を参照のこと。

1945年8月15日以降、朝鮮人児童に母国語を教える「国語講習所」が、日本各地で開かれるようになった。当初の目的は、帰国を前提として、日本生まれで同化政策に晒された朝鮮人児童が母国語に不自由しないようにとのものであったが、日本に残留せざるを得ない人びとが次第に増えてくるようになった⁵⁾。この講習所は、全国で200を超え、朝連の指導の下1946年4月頃から徐々に教育機関としての体裁を整え、体系化していくこととなり、その名称を「初等学院」とした。初等学院は、4月から上(一・二年)中(三・四年)下(五・六年)の三学年に分けられ、国語、歴史、地理、算数、体育、音楽などの科目が教えられ、9月からは再統合し、6年制となる。

朝連の中央文化部(後に改編され、47年「文教局」となる)では「初等教材編纂委員会」が新設され、教科科目を教える基盤となる教科書の作成が急務となった。この教科書作成の重責を担ったのが、当時朝連で活動していた若きインテリたちであった⁶⁾。

1947年に入り、学年制導入に伴って学年別の教科書を作成する必要性が生じ、教材編纂委員会は質的に新たな段階へと教材編纂を進めていくことになる⁷⁾。

その後、1948年1月24日文部省より「朝鮮人設立学校の取扱に就いて」とい

5) 1946年2月17日にGHQが発表した「朝鮮人、中国人、琉球人及び台湾人の登録に関する総司令部覚え書き」に従い、日本政府に在日朝鮮人の帰国希望の有無その他について、登録するよう命じられた。1946年3月18日、日本の厚生省が行った登録結果によると、在日朝鮮人総数64万7,006人、そのうち帰国希望者は総数の79.5%にあたる51万4,060人となっている(『歴史教科書 在日コリアンの歴史』作成委員会編(2006))。

6) 金徳龍(2002)によると、初等教材編纂委員会のメンバーは、国語科担当の李珍珪、朴熙成、算数科の金尚起、金京煥、蔡洙鋼、理科の朴俊栄、任煥準、歴史科の林光徹、地理科の李殷直、魚塘、音楽の尹紀善、韓春愚、図画の朴盛浩、李仁洙、公民科の李相堯の15名である。魚塘(1998)によれば、朴俊栄、任煥準(魚塘(1998)では「任英俊」としている)、蔡洙鋼などは現役の大学生であったという。後に、1947年10月以降になってからの教科書編纂委員は、李珍珪、林光徹、許南麒、李殷直、魚塘の5名であり、日本人教育者とも連携があった。

7) 呉圭祥(2009)によると朝連の教科書編纂事業では、1949年5月までで144種、129万1,540部の教材を発行している。

う通達がなされ、4月のいわゆる阪神教育事件⁸⁾を経て、1949年9月8日法務府告示により朝連を初めとした関連団体は解散を余儀なくされる。それ以降、文部省当局による通告により、朝鮮人学校は事実上、閉鎖に追いやられ、民族教育は冬の時代を迎えるようになる⁹⁾。

3. プランゲ文庫における朝鮮語教科書と副教材

終戦後の在日朝鮮人による学校教科書については、藤井幸之助（1985）、魚塘（1998）、金徳龍（2002）、呉圭祥（2009）などの論考がある¹⁰⁾。ここでは、先行研究を踏まえながら、プランゲ文庫で確認されている教科書ならびに副教材に限って取り上げ、その内容を概観することにしよう。

3. 1 1946年出版のもの

- ① **初等國語讀本 上巻**（1946年5月14日印刷 1946年5月15日発行（改訂再版） 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 72頁）

50課の構成。まずハンゲルの文字のつくりを示し、母音字、子音字の順に手ほどきを与え、次いで動植物、食材、楽器、農機具、親族名称などの身近な単語をイラストとともに朝鮮語で示している。朝鮮の衣服、太極旗、朝鮮人によくある名前、木槿、朝鮮独立、白頭山、鴨緑江、済州島、京城など民族の象徴物や地名を表す単語が随所にちりばめられている。新生朝鮮の建設を担うよう呼びかける文言や、朝鮮学校で自国語と自国の歴史を同胞と共に学ぶ喜びの描写もうかがえる。最後に寓話が三編ある。

8) 特に阪神間で民族教育を擁護しようとする大きな運動が24日に起こった。

9) 経緯について詳しくは、小沢有作（1973）pp.221-301、呉圭祥（2009）pp.141-165を参照のこと。

10) 藤井幸之助（1985）は、特に国語教科書群の内容について詳細に検討している。魚塘（1998）は、教科書編纂事業に直接携わった本人として、教科書編纂の実際とその時代背景について述べている。

- ② **初等國語讀本 中巻** (1946年 5月25日印刷 1946年 5月31日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 72頁)

18課で構成されており、第1課は「朝鮮の空は明るい」という朝鮮語文で、三十八度線を境に分けられた祖国の状況が冒頭から描かれている。人としての道義を論ずる文章や事物の描写文などがあったり、対話の形式を用いて、アンテナの高さの計り方を子ども同士で議論するような課も登場したりする。鐘路、太極旗、木槿、朝鮮人の食卓、正月の様子など、中巻でも民族的なものの描写が満載である。

- ③ **初等算数 上巻** (1946年 4月15日印刷 1946年 4月20日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 78頁)

冒頭に見開きで朝鮮の風景と思われるイラストがある。数の概念や数字を親しみやすいイラストや豊富な例題で浮き彫りにし、時計の見方、四則計算に習熟させることを目指している。

- ④ **初等算数 中巻** (1946年 5月20日印刷 1946年 5月25日初版発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 84頁)

数多くの計算練習に加えて図形や面積、グラフ、小数、分数、平均、体積、水量、速度などの項目を網羅している。所々に高さを測る応用問題あり。

- ⑤ **비들기 (ほと) 第1集** (1946年 8月10日印刷1946年 8月15日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 30頁)

童謡集。14の童謡詩が集められている。家族や自然、身近な動物などありふれた日常の描写が散見される一方で、朝鮮民族としての自覚と自主独立を呼び

かける文言がふんだんに見いだされる。

- ⑥ **어린이國史 (子ども国史) 上巻** (1946年 5月10日印刷 1946年 5月20日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 124頁)

国家形成以前の記述から三国時代を経て、高麗王朝の衰亡までが書かれている。

- ⑦ **初等理科 上巻** (1946年 5月25日印刷 1946年 5月31日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 59頁)

内表紙には、民族の象徴である木槿の花¹¹⁾が描かれている。植物や動物、昆虫や自然物、地球、人体などに関する学習項目で成り立っている。p.45から附されている「教師用ノート」には、その編纂趣旨を、系統的・羅列的知識の注入が目的でなく、野外に積極的に出て対象物を観察させ、推理力を身に付けさせることだとしている。

- ⑧ **初等理科 下巻** (1946年 8月31日印刷 1946年 9月15日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 81頁)

電話機、カメラ、電信機などの機器類、天気、火と空気、浮力と重力、金属などの物質という項目を扱っている。

- ⑨ **初等朝鮮地理：全** (1946年 8月31日印刷 1946年 9月15日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 147頁)

11) 現在、大韓民国の国花とされている。

朝鮮地図、地勢、気候・交通と続き、朝鮮半島を「中鮮」・「南鮮」・「北鮮」地方に分け、それぞれの地勢・産業・都市と交通について詳しく記述している。最後に、「解放と新朝鮮」という課で解放後の朝鮮半島の歩みが描かれ、展望で締めくくられている。この完成本には、ゲラ刷り本があり、検閲局によって7カ所の削除処分を受けている。

他に1946年の印刷物としては、『한글가로쓰기 (ハングル横書き)』（朝鮮文普及会）があるが、どのように利用されたかは不明である。

3. 2 1947年出版のもの

- ① **초등국어 (初等国語) 1** (1947年3月25日印刷 1947年3月30日発行
1947年10月3日訂正再版発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局 15×21 47頁)

教師への序言に、教材内容を日常生活の中から多く材を取ったこと、国語を学びながら他の科目も学べるよう総合教育を意図したこと、目・耳・口だけで学ぶのではなく、全身の動作や遊戯、作業を通して学べるようにしたことが述べられている。また、国語の指導にあたっては、発音・読み方・話法を教えることに重点を置くようにとも書いている。母音・子音の基本字母は確実に教えるようにするが、合成字母については、二・三学期でよいとしている。示されたイラストに基づいて自由に話させる単元があり、次いで日常的な単語の綴りや日常生活を表す短文が続く(目次および課による区分なし)。民族的な要素としては、「国旗を作ろう」という短文に太極旗の絵や女子生徒のチマチョゴリ姿のイラストが現れる他、8月15日の解放記念日を高らかに謳う文が、「朝鮮解放万歳」「新しい朝鮮を私たちの手で」というプラカードや太極旗を持って列をなし行進する子どもたちのイラストとともにある。

- ② **초등국어 (初等国語) 2** (1947年7月20日印刷 1947年7月25日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局

15×21 118頁)¹²⁾

全44課の構成。教師への序言に「教科書のみならず作文、習字、会話、児童劇を積極的に導入すること」とある。童謡・童詩、童話、実話、寓話、文学などを中心として、社会・自然観察、地理・歴史の素材やなぞなぞ、諺も含まれており、随所に設問が附されている。児童劇の台本もある。民族的な要素を含むものとしては、朝鮮人名、太極旗、正月の子どもたちの民族衣装、オンドルなどが登場する。

8課には、子どもの日に校長によって「元気で勉強を頑張り、立派な人物になって朝鮮を輝かせ」との訓辞があったという日記文がある。37課で、朝鮮半島の地図とともに、朝鮮の有名な山（白頭山、金剛山、智異山、漢拏山）や川（豆満江、鴨緑江、大同江、漢江、洛東江）の名前が登場する。次いで、朝鮮の山河の美しさを称える描写が続き、「こんなに美しい朝鮮は長い間日本に奪われていたのだ。どれだけ悔しかったことだろうか。しかし今や再び楽しい朝鮮となった」と植民地から解放された喜びをあらわにしている。

③ **초등국어 (初等国語) 3** (1947年7月20日印刷 1947年7月25日発行)

著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局
15×21 142頁)

全42課の構成。初等国語2と内容の種類や構成は大幅に違わないが、内容において関連づけを出来るだけ試みたと教師への序言にある。また、朝鮮語がわからない子どもたちに話法を指導し、朗読会、児童劇などを通して生きた朝鮮語を教えようとする配慮が必要だとした。民族的な要素としては、6課「子ども行進曲」に「青い空に太極旗掲げて、ああ、楽しい朝鮮独立旗 木槿三千里 花咲く野山はああ楽しい 我々の手で」とあり、26課で世宗大王が創製したハングルの長所に言及し、日本人が植民地時代朝鮮人にハングルを学ばせない

12) 藤井幸之助 (1987) は、二年前期と二年後期を欠本としているが、一冊本としてプランゲ文庫に収められている。

ようにしたが、解放された今は自由に使えるようになったという喜びを表現している。32課では、朝鮮の名筆家である韓石峯のエピソードを取り上げている。35課「曆」で朝鮮の記念日、特には3月1日の独立記念日と8月15日の解放記念日が説明されている他、7月4日のアメリカ独立記念日、11月7日のソビエト社会主義共和国連邦が建てられた十月革命の記念日も紹介されている。37課「光り輝く朝鮮を建設します」において「お腹一杯食べて楽に暮らすことができ」、「国と人民を大切にする」朝鮮を建設するのだとしている。

- ④ **초등국어4 후기용 (初等国語4後期用)** (1947年9月20日印刷 1947年9月30日初版発行 著作者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局 15×21 86頁)

全27課の構成。序文では、子どもがだんだん内省的になり、事物を客観的・批判的に観察していくようになる成長過程に応じた内容になっているとしている。3学年までは寓話、童話の割合が4割ほどあったが、その割合を少なくし、社会事象の観察・批評をテーマとした内容の割合を増やしている。民族的なものとしては、14課の「故郷の空」で「故郷の家が恋しいときは、あの山超えて空ばかり見つめる」と故郷を慕う気持ちをかき立て、15課で文禄慶弔の役のときに日本軍を撤退させたとする「亀甲船」を扱い、24課の「活字」で高麗時代に世界で初めて発明された金属活字を取り上げ、民族の偉業と称えている。

- ⑤ **초등국어5 후기용 (初等国語5後期用)** (1947年12月20日印刷 1947年12月25日初版発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局 15×21 89頁)

全23課の構成。教師への序言において、言語教育を社会生活と分離させるべきでないと助言しつつ、子どもが将来社会生活を営む上で必要な知識を得るための内容が4割を占めるとしている。また、文学教材としては、現実生活に示唆を与えるような内容にし、科学的な教材として、発明・発見・実験記録・伝

記等を扱っているともしている。5課「マラソン」では、1936年のベルリンオリンピックで優勝した孫基禎選手の話を取り上げ、7課「ハンゲルの日」で世宗によって創製されたハンゲルの公布日について言及し、その意義を説いている。12課「日本に行った姉」で日本に連れて行かれ、消息が途絶えた姉を気遣う文章があり、17課「文大」では、高麗時代蒙古侵略時に活躍した武官文大の勇敢さを称え、21課「朝鮮の山川と気候」では朝鮮には季節ごとに美しい自然があることを描写した。22・23課「わが国の米と日本」は1889年に起こった「防穀令事件」を材にとり、話を植民地時代の日本による米の収奪と朝鮮からの移住問題へと展開させている。

- ⑥ **초등산수1전기용 (初等算数 1 前期用)** (1947年 6月 5日印刷 1947年 6月10日発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 37頁)

算数絵本としての役割を担わせている。数の数え方と数字をマスターさせることに主眼を置いており、1から10、10から100までの数、助数詞、順序数詞、偶数の学習項目がある。旗、人、指、野菜、動物、農具、学用品、椅子、船舶、自転車、スプーン、電球、星、乗り物、人形などが登場し、サイコロを使った足し算の学習がある。

教室内の学習にとどまらず、教室外や校外における教育を積極的に奨励している。また、教具や遊び道具、遊戯など「遊び」からのアプローチも迫ったり、合唱形式を取り入れることも提唱している。日常生活への応用も促している。

- ⑦ **초등음악 상 제 1, 2 학년용 (初等音楽 上 第 1・2 学年用)** (1947年 6月 5日印刷 1947年 6月10日初版発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 40頁)

主に本国でよく歌われている童謡を中心に編んだ。編纂者の作品も含まれている。

子どもらしい題材を扱った歌を中心にしながらも、一方で故国朝鮮への関心を育てるための歌も盛られている（「解放の歌」「朝鮮の歌」「白頭山」など）。巻末に「音名」と「音階」が附されている。教師向けの序文には、音階や音名、発声等の基礎訓練を怠らないことと、歌詞を教える際には国語（朝鮮語）の教授法と関連づけることなどが書かれている。

⑧ **우리동무習画集**（わが友習画集）（1947年11月20日印刷 1947年11月25日発行 編集兼発行人：劉載鉉 発行所：朝鮮新民生社 18×26 14頁）
動物や昆虫、食材、ボールと靴、手の形、チマチョゴリを着た女子生徒の絵が載っている。

⑨ **少年少女生活教室**（1947年12月20日印刷 1947年12月25日初版発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局 15×21 121頁）

第4・5・6学年共用。児童たちによる課外活動や自由研究の指針となる教科書として編まれている。サークル（クラブ）の作り方、中国の説話、学級自治会、壁新聞の作り方、指人形の作り方、人形劇の行い方、また、付録に人形劇の脚本が低学年用と高学年用の一つずつ附されている。

他に、1947年には副教材として『外来語表記法統一案』（朝鮮語学会）が朝聯中央総本部文教局から翻刻出版されており、『헤엄（水泳）基礎練習編』（著作者：蔡洙仁 イラスト：広瀬貫川）が在日本朝鮮体育会から発行されているが、利用のされ方については不明である。

3. 3 1948年出版のもの

① **초등산수 1 후기용（初等算数 1 後期用）**（1948年6月5日印刷 1948年6月10日 初版発行 著者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部 15×21 108頁）

100までの数の概念、様々な図形、足し算、引き算、十の位までの繰り上げ算、量の単位、直線・曲線、時計、長さの単位などの学習項目がある。日常場面を題材にした文章題が多い。イラスト多数。

- ② **朝鮮史入門 上巻** (1948年 3月20日印刷 1948年 3月25日 初版発行
著者：林光澈 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教部 15×21
142頁)

初等学校5年生用の歴史教材として編まれている。教師への序言に、解放以降の朝鮮半島の混乱ぶりが述べられた後、歴史教育で肝要なのは、個々の史実や年代の暗記よりは、時の経過とともに変革を遂げている社会を概観する力を養うことだとしている。前史時代から始まって原始時代、三国時代を経て高麗末までの時代を扱っている。

- ③ **어린이습자첩 (子ども習字帖)** (1948年 1月25日印刷 1948年 1月30日
発行著者：初等教育編纂委員会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部
25×16 40頁)

習字を書くときの心構えが述べられた後、日常生活に即した単語の習字(ハングルと漢字)の模範が載せられている。「新朝鮮」「自由解放」「独立万歳」「太極旗」「李舜臣將軍」「朝鮮完全自主独立万歳」「八一五解放記念日」「在日本朝鮮人聯盟」「民主主義民族戦線」「白頭山」などの字がある。

3. 4 1949年出版のもの

- ① **초등국어 1 전기용 (初等国語 1 前期用)** (1947年 3月25日印刷 1947年
3月30日発行 1949年 4月15日 第4版発行 著作者：初等教材編纂委員
会 発行者：在日本朝鮮人連盟中央総本部文教局 15×21 47頁)

1947年に発行したものを、再版発行している。

- ② **초등국어 (初等国語) 2** (1947年 7月20日印刷 1947年 7月25日発行
1949年 4月15日再版発行 著作者：初等教材編纂委員会 発行者：在日本
朝鮮人連盟中央総本部文教局 15×21 118頁)

1947年に発行したものを、再版発行している。

- ③ **미술 (美術) 1・2學年用** (1949年 5月25日印刷 1949年 6月 1日発行
著作者：朝鮮新民生者編集局 印刷兼発行人：劉載鉉 15×21 24頁)

序文において解放後、4月24日の阪神教育闘争の記念日に初めて、美術の教科書を出すことの意義を述べている(3・4学年用、高級学年用の序文にも同じことを述べている)。朝連の小学校1・2学年用として編まれ、日常生活から材を得、クレヨンを中心として描けるようにし、風景よりも物の形態を描くことに重点を置いた。模倣力の養成を重要視している。果物や野菜、動物、文具や本などの他に、民族的なものとして、チャンスン(村の守護神として、村の入り口にある男女一対の木像)、朝鮮の膳、キムチ用の甕などの絵がある。

- ④ **미술 (美術) 3・4學年用** (1949年 5月25日印刷 1949年 6月 1日発行
著作者：朝鮮新民生者編集局 印刷兼発行人：劉載鉉 15×21 24頁)

事物を正確に見て、遠近法や陰影をきちんと描くことに重点が置かれている。クレヨンを使っての描き方と水彩画、鉛筆によるデッサンの指導がある。様々な模様・図形や日常的な単語の他に、民族的な絵として、解放記念という文字が荷台に書かれたジープ、景福宮、鬱陵島、民族服を着た人物などがある。

- ⑤ **미술 (美術) 高級學年用** (1949年 5月25日印刷 1949年 6月 1日発行
著作者：朝鮮新民生者編集局 印刷兼発行人：劉載鉉 15×21 24頁)

序文に、事物を正確に描くことにとどまらず、日常生活から美を見だし、表現の意欲を高め生活を美術化させ、日常生活を楽しむ気持ちで描くようにとの心構えについて書いている。まず配色図が示され、文房具、果物、野菜、動物、風景などの他に、民族的なものとして、民族服を着た人物画、ソウル北

門、鬱陵島、村（朝鮮の蕈茸きの家）の絵がある。

他に、1947年には副読本として『이소브이야기（イソップ物語）』（1946年に京都の高麗文化社から発行、訳者：林炳哲）、『어린이과학얘기（子ども科学話）』、翻刻版の『소학생모범작문집（小学生模範作文集）』（1946年に朝鮮児童文化協会から発行）が朝連の文教局から発行されている。

4. 教科書の傾向と特徴

以上、1946年から1949年までの在日朝鮮人児童向けの学校教科書26種類について概観してきた。これらから浮かび上がる傾向と特徴としては、次のようなことが言えるだろう。

まず、教科書がすべて朝鮮語で書かれており、朝鮮語習得に何よりも重点が置かれていたということが如実にわかる。それ故、国語教育は特に重要視され、他教科との関連づけも積極的に促されている。

次に、国語、歴史、地理教科書に限らず、他教科においても民族心を培養するという姿勢が色濃く反映している。これは、植民地時代、抑圧されていた民族性の回復を目指すと同時に、異郷においても朝鮮人としての自主独立心を持って生きていくことを呼びかけるものである。

さらに、教科書は、左翼的な立場に立脚した朝連という組織¹³⁾の傘下で作成されたが、政治的な扇動を意図するような記述はほとんど見あたらず、何よりも基礎学力の養成を重要視していたことが窺える。教科科目を効果的に教えるために、学年ごとに子どもの発達段階に応じた内容で教科書を構成したり、知識の注入にとどまらず、日常生活と結びつけて教えようとする工夫や姿勢が随所に見てとれる。

13) 金徳龍(2002)は、「朝聯の第二回臨時全国大会（1946年2月26日・27日）は、実質的に南北朝鮮に分断されていた状況下で、北朝鮮を支持するという政治路線を、一層明確に打ち出した」としている。

5. おわりに

本稿では、プランゲ文庫に収められた、戦後の在日朝鮮人による学校教科書についてその内容を概観し、傾向と特徴を述べた。

教科書を通して、特に在日朝鮮人が自国語である朝鮮語を教えることに力点を置いていたということが明らかになった。この時期の在日朝鮮人による朝鮮語教育は、戦後日本における朝鮮語非母語者への全体的な朝鮮語教育の変遷を考える上でも、少なからずその命脈をつないできたという側面があるといえないだろうか。

今後の課題としては、教科書に現れた朝鮮語自体の語学的分析（表記、文体、語彙・表現など）や日本語の影響がどのようなものであったかの分析などがあげられる。また、教科書執筆者たちの来歴を踏まえた上で、教科書編纂時、素材をどこからどのように取り込んでいったのか、綿密に調査を行うことも必要である。朝連の教科書編纂には、日本人教育者の協力があつたことも知られているが¹⁴⁾、その協力関係なども考慮するべきであろう。

本稿では、朝連の教科書が受けた、GHQの検閲局による検閲の実態について具体的には触れられなかった。これについては、稿を改めて論じることとしたい。

14) 初等教材編纂委員会は1947年2月から波田野完治、国分一太郎、後藤禎二などの日本人教育者や学者による協力・助言を仰いでいる（金徳龍（2002））。

参考文献

- オギユサン
呉圭祥 (2009) 『ドキュメント在日本朝鮮人連盟 1945-1949』 岩波書店
- 小沢有作 (1973) 『在日朝鮮人教育論 歴史篇』 亜紀書房
- オダン
魚塘 (1998) 「解放後初期の在日朝鮮人組織と教科書編纂事業」『在日朝鮮人史研究』 28号、pp.103-120.
- キムドンリョン
金徳龍 (2002) 『朝鮮学校の戦後史』 社会評論社
- 小林聡明 (2007) 『在日朝鮮人のメディア空間—GHQ占領期における新聞発行とそのダイナミズム』 風響社
- 小林聡明 (2010) 「GHQ占領期における在日朝鮮人雑誌の書誌的研究」『人文学研究所報』 43、神奈川大学人文学研究所、pp.101-111.
- 小林聡明 (2011) 「朝鮮人の移動をめぐる政治学—戦後米軍占領下の日本と南朝鮮」『近代アジアの自画像と他者—地域社会と「外国人問題」』 貴志俊彦編、京都大学学術出版会、pp.105-128.
- 藤井幸之助 (1987) 「解放後、日本における朝鮮人学校の国語教科書」『在日朝鮮人史研究』 17号、pp.84-109.
- 『歴史教科書 在日コリアンの歴史』 作成委員会編 (2006) 『歴史教科書 在日コリアンの歴史』 明石書店

※ 本稿は、平成22年度 (22.7-24.7) 二国間交流事業共同研究 (研究課題名: 冷戦期日韓におけるアメリカの存在—映像文化と生活世界から見える「アメリカ」、日本側研究代表者: 土屋由香、韓国側研究代表者: 車載永) の助成を受けて行った研究成果の一部である。